

◆◆◆◆ メイン報告 ◆◆◆◆

1. ゴールデンレトリバーのがん予防試験実施状況

2019年6月現在のフード試験実施状況は、以下のとおりです。

<フード試験モニターの状況>

		合計頭数	♂	去勢♂	♀	避妊♀	試験開始時の平均年齢
2015年開始当初 13頭	植物エキス群	7	2	2	1	2	5歳11ヶ月
	プラセボ群	6	2	1	1	2	
2年目～組入 3頭	植物エキス群	2				2	5歳6ヶ月
	プラセボ群	1			1		
症例数合計 16頭	植物エキス群	9	2	2	1	4	5歳10ヶ月
	プラセボ群	7	2	1	2	2	

<症例数の動態>

	頭数	内 容
症例数 (2年目組入れ数を含む)	16	
試験開始後に除外した症例	△2	臨床試験開始3ヵ月後除外1例 ^{※1} 、2年経過後除外1例 ^{※2}
がん発症により終了となった症例	△2	臨床試験開始2年後 ^{※3} に途中終了 2例
3年間の臨床試験を終了した症例	△10	試験開始から3年を経て、定期検査をすべて終了したもの 10例
現在試験継続中の症例	2	2019年度中に3年間の定期検査すべて終了予定 2例

※1は、臨床試験開始3ヵ月後に他疾患によるステロイド治療を長期に必要とした為、試験中止としました。

※2は、下痢症状が改善されない為市販フードに変更したいとの飼主様の意向に基づき、試験フード給与中止としました。

※3は、試験開始2年3ヶ月と2年4ヶ月後にがんを発症したため、その時点で試験終了となりました。

	フード群	合計	♂	去勢♂	♀	避妊♀	備 考
がん発症率	植物エキス群	0/8	0/2	0/2	0/1	0/3	除外した2例を除く14例
	プラセボ群	2/6	0/2	—	1/2	1/2	

2. 試験終了時に、飼主の皆さんから回収した試験フードに関するアンケート結果

(回収数： 植物エキス群 6通/7通 プラセボ群 2通/3通)

(1) 試験フードの食いつきに関する質問と回答

- ・8頭とも「食いつきは良かった」との回答で、供給量・頻度等からみた両群の差もありませんでした。
- ・1ヶ月平均のフード供給量は、植物エキス群：8.7kg・プラセボ群：8.4kgでした。
- ・1ヶ月平均のフード供給量が10kgを超えているのが3頭、残り5頭は4.6～9.5kgの間でした。
- ・月平均9.5kg以上食べているのはすべて雄で、雄の平均供給量は11.0kg。雌は平均6.2kgの供給量でした。

(2) 「食べ残しがあったか」に関する質問と回答

- ・7/8頭の回答で「なし」、残り1頭も夏場に少しだけ食欲が落ちたとの回答で、概ね食べ残しなしとの内容でした。

(3) フード以外に混ぜたものがあるかに関する質問と回答

- ・6/8頭で「なし」の回答。他の2頭も月1回程度少量と、薬を飲ませるためにウエットフードを少量加えたとの回答でした。

(4) フード以外に「おやつを与えたか」に関する質問と回答

- ・「おやつを与えていない」は2/8頭で、他の6頭は頻度も少なく少量ですがおやつを与えていたとの回答でした。
- ・おやつの種類は様々ですが、頻度は月1回～週2回程度まで。量も1～2口程度と少量でした。
- ・飼主の皆さんにフード試験の趣旨をご理解いただいているためか、極力与えていないとの回答と感じ取れました。

(5) フードによるワンちゃんへの悪影響や不都合な点に関する質問と回答

- ・8頭とも「悪影響や不都合な点はなし」との回答でした。

(6) 試験フードに関する意見・要望についての質問と回答

- ・試験フードが市販化されることを期待しているとの回答が多くありました。
- ・雌の症例の回答で、体重基準どおりに餌を与えると太りすぎるとの声がありました。
- ・雌の症例からの声で、食が細い犬用に、酸化を防止する為に5kgでの供給が良かったとの意見がありました。
- ・糞の匂いが気になった。配合のせいか、糞の量も増えたので、改善を希望するとの意見もありました。
- ・試験終了に当たって、試験フードを購入することはできないのかとの声を数多くいただきました。
試験フードのベースである製造・販売：ペットライン株式会社の“ドックビットフィールド”をご紹介します。